



進路だより

令和6年3月8日（金）発行
福井県立盲学校進路指導部

待ちに待った春の到来です。卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。4月からは新たな道で、これまで学んだことや培った力を存分に発揮し、さらに努力を重ね、活躍してほしいと思います。今年度はコロナによる行動規制が緩和されたことで、校外へ出掛けたり外部から講師をお呼びしたりすることができ、幅広い進路行事を実施することができました。児童生徒、保護者の皆さんには、進路を考える機会として、活用していただけたことと思います。今回は、主に後期に実施した進路関連行事を中心に報告します。

普通科 職場体験

後期 進路関連行事・学習 報告

職場体験に行って

普通科2年 生徒

私は、11月9日と10日に福井労働局に職場体験に行き、事務仕事で様々な作業をしてきました。ハンコ押しの作業では、初めはしっかりと押せませんでしたでしたが、どうすれば効率よくできるか、どうすればきれいに押せるか、ということを考えながらやっていくうちに、どんどん上達できました。他の仕事でも、同じように考えながら行うことで、上達することができました。また、職場の方とのやり取りで、自分ができることとできないことをしっかりと相手に伝える大切さを学びました。働くということを今までしたことがなかったので、良い社会勉強になった2日間でした。



進路指導について

普通科2年担任

普通科2年では、昨年度から進路に関する情報を収集し、職場見学やオープンキャンパス参加などの進路体験を行うことで、進路選択に向けた準備を進めています。昨年度はオープンキャンパスや校外学習で県内4校の上級学校を訪問し、それぞれの学校の授業の難易度やキャンパスの雰囲気、視覚への配慮情報について比較検討しました。そして今年度は、さらに県外1校も加えた3校の上級学校訪問を行うとともに、将来の希望に関連する職場2社を見学することで、将来のイメージが少しずつできてきた様子でした。

次年度は、この2年間で調べてきたことや見聞してきたことを基に、自信をもって進路選択をしてほしいと思います。

普通科 現場実習

初めての現場実習

普通科 1年 生徒

私は、鯖江にある光道園で現場実習を行いました。プラスチックのシールはがしや箱折をしました。最初は、職員さんに教えてもらいながらしました。職員さんは、優しく教えてくれたので分かりやすかったです。うまくいかないときもありましたが、うまく折れたときもありました。周りには、箱折がとても速い人もいました。実習中、いくつかの箱を折らせてもらいましたが、最後に折った眼鏡の仕切り箱が折りやすかったです。盲学校卒業の先輩の近くで仕事をさせてもらうこともありました。先輩は、こういう箱を折っているんだな、すごいなと思いました。私も卒業後は光道園で働きたいなと思いました。来年も実習に行きたいです。

現場実習を終えて

普通科 1年担任

初めての現場実習にあたり、総合学習で福祉作業所について調べました。そこで、たくさんの作業所があり、仕事内容もいろいろあることを学習しました。そして以前から、盲学校を卒業した先輩がいる光道園での実習を希望していたため、保護者と見学してもらい実習を決めました。実習が始まると緊張した様子も見られましたが、職員さんの話をよく聞き、丁寧に作業に取り組むことができました。職員さんからお褒めの言葉もいただきました。今回、実際に現場で体験ができたことにより、働くことへの理解や難しいことに挑戦できたという自信につながったのではないかと思います。今回の経験を、今後の進路学習に生かしてほしいです。

普通科 進路講演会

12月14日（木）公益財団法人 北陸電力教育振興財団が実施している「元氣創生塾」事業を活用して、普通科進路講演会を行いました。「チャレンジすれば後悔しない 人生はやる気とやり方で変わる」と題して、(株)エンジョブ代表取締役社長の高橋 純氏による講演でした。才能があっても続けなければ意味がない、続けることが未来へのチャンスにつながるんだということを、御自身の経験を交えながら伝えてくださいました。また、講演の最後には「人生にリハーサルはない、いつも一回きりです」という強く熱い言葉をいただきました。

進路講演会を聞いて

普通科1年 生徒

この進路講演会を聞いて、改めて続けることの大切さを感じました。私は、努力を続けることが苦手だから、私の将来のために、もっと努力をする工夫を試してみようと思いました。

進路講演会を聞いて

普通科1年 生徒

進路講演会では、自分の人生について改めて考えることができました。逃げずにチャレンジする大切さ、失敗を恐れずにやる大切さに改めて気付くことができ、日頃から支えてくれている人たちに感謝しなければならないと思いました。いちばん印象に残ったことは、不平や不満を言って社会や環境のせいになっていることは、自分を不幸にするものだということです。今まで嫌だと思ったことは普通に不満を言ってしまっていました。改めないといけないと思いました。また、日頃からしっかり感謝を言えているか、あきらめずにやれているかなどと聞かれたときも、自分を振り返ると心に刺さりました。自分を変えるのは簡単ではありませんが、今回の講演で感じたことを意識して生活していきたいです。

進路講演会の感想

普通科1年担任

「今ここ100%」「嫌だと思っても続けたことが自信になる」という言葉が印象的でした。最近立ち止まって自分自身を振り返ることがありませんでしたが、今回の講演を通して改めて自分自身を見つめ直す良い機会となりました。講演会後には生徒たちも「心に響いた」という感想を話してくれました。誰もが困難な場面に直面すると、その場から逃げたくなると思いますが、「今」「継続」というキーワードを生徒たちとも共有し、困難にも立ち向かっていける力を生徒とともに伸ばしていきたいと思います。生徒の皆さん、将来の目標が少しずつ明確になってきていると思います。自分に対しての甘さを捨て、目標が達成できるように一日一日を大切に過ごしましょう。

山梨県立盲学校との合同進路学習会

普通科教諭

12月20日（水）3・4時間目に山梨県立盲学校と合同で進路学習会を実施しました。対象は高等部普通科A課程の生徒で、福井盲と山梨盲をオンラインでつなぎ、計6名の生徒が参加しました。

福井盲と山梨盲から各1名が講師として、それぞれ30分ほど講演しました。その後、座談会形式で大学生活についてディスカッションを行いました。視覚障がい当事者の視点から、進学や就労に関すること、卒業までに身に付けておきたい力などについて話しました。

私からは「なりたい自分を目指して」というテーマで話しました。筑波技術大学への進学を決めた流れや大学生活での気づきを共有し、なりたい自分に近づくために能動的に動くことの大切さを話しました。また、私自身の体験談として「ひとり暮らしの体調不良」を例に挙げ、自己管理の大切さや様々な事態を想定した備えの必要性について考えました。

山梨盲の先生の講演では、自身の経験を交えながら自分の見え方・困難さ・必要な支援を説明する力の重要性について話をさせていただきました。また、理療のやりがいについても伝えていただきました。

本会をきっかけに、将来どんな自分になりたいか、そのために今何ができるかを考える機会となれば幸いです。

進路学習会の感想

普通科1年 生徒

山梨盲学校と合同での進路学習会では、二人の先生から、一般大学進学・理療科進学・一人暮らしについて話を聞きました。一人暮らしの大変さや、理療科進学への思い、大学の特徴など、様々な点で貴重な話を聞くことができました。話を聞くまでは、一人暮らしに関しては、ただ一人で生活するという簡単なイメージしかありませんでした。また、大学では難しいことを学ぶというイメージでした。今回の話を通して、一人暮らし・大学進学の印象が真反対になりました。大学や専門学校に進学する・一人暮らしをするということも、私の進路選択の候補にあるので、とても勉強になりました。これらの話を参考に、今後の進路を考えていきたいです。

理療科 職場見学

鍼灸院訪問

保健理療科3年 生徒

理療科職場見学で、鍼灸院を訪問し、院長さんからお話を伺いました。院長さんは探究心や向上心、さらに行動力があふれている方だと感じました。

鍼灸での治療が好きで、セミナーや他の施術所で自ら施術を受け、良いところや知らないことを積極的に吸収し患者さんに提供しているそうです。次第に院長さんのファンが増え、始めは他の施術所で勤務していらっしやいましたが、徐々に開業することになったそうです。お仕事は大変そうですが、お話しているときの声や口調はとても楽しそうでした。鍼灸院のお名前にも院長さんのたくさんの思いが込められているとのことで、木で作られたドアや院内の雰囲気も女性ならではの優しさがあふれていて、とても落ち着く環境でした。院長さんのように、人に寄り添うことによって喜ばれる人になれば、人生がキラキラしそうです。とても、素敵な時間を過ごすことができました。



理療科 さんフェア福井 2023

理療科教諭

10月28日、29日に産業会館でさんフェア福井2023（全国産業教育フェア）が開催されました。これは、全国の職業系高校の生徒が集まる大会です。福井県内の特別支援学校も10校が参加し、日頃の作業学習や実習の成果を、展示や体験、販売、実演などで発表しました。

本校からは生徒と教員が参加し、来場者に15分間のクイックあん摩を提供しました。受付開始からすぐに約60名分の予約枠は埋まってしまいました。クイックあん摩では、全国の高中生や引率の先生、一般の来場者などと楽しく話しながら交流を深めることができ、日頃の実習の成果を発揮することができました。

今後もあん摩の良さをより一層知ってもらえるよう、様々な場所へ出掛けていきたいと思えます。

小学部 交流学習

大阪北視覚支援学校との交流学習

小学部 6年 児童

今年、大阪北6年の友達と交流学習を3回して、楽しかったことがたくさんあります。特に楽しかったのは、12月8日に行ったオンラインでの外国語の授業です。6年間の思い出の中から特に印象に残ったことを英語で話し合いました。修学旅行の話では、お互いに行き先や楽しかったことを発表し、質問もたくさんして授業がとても盛り上がりました。大阪北の修学旅行も充実していて、とてもうらやましかったです。この大阪北との交流は4年生の時に始まりました。最初は緊張であまり集中できなかったのですが、交流を進めていくうちに、だんだんリラックスして楽しい時間となりました。今では楽しく気軽に話しながら、交流ができています。交流の時間以外にも手紙を交換しているから、とても仲がよいです。これからも手紙のやりとりを行い、機会を見つけて実際に会って話し合いたいと思います。

交流学習

小学部 6年担任

今年度小学部では、学校間交流に積極的に取り組みました。居住地校に加えて大阪北視覚支援学校や他の特別支援学校等も対象とし、対面での交流、手紙・作品のやりとり、Zoomを使ったオンライン交流等、様々な形で行いました。年齢が近い小学生と触れ合う機会がない児童にとって、これらの機会を通じて一緒に活動する楽しさを感じると共に、友達の学習態度や話し方・言葉遣い等から自分と異なる背景や価値観を理解し、共感できる良い機会となりました。また、小集団活動では、意見を聞いたり分かりやすく伝えたりするコミュニケーション力や相手に応じて柔軟に対応する力が伸長しました。自己理解と自己肯定感を高めていく機会としても、今後も交流学習を継続していくことが大切だと感じます。

卒業生インタビュー

本校ホームページに、平成28年度専攻科理療科卒業生へのインタビュー動画を公開しました。動画では、盲学校に入学するまでの経緯や学校生活、盲学校への思いなどを語ってくれています。是非御覧ください。

～卒業生から近況報告～

平成24年度 高等部専攻科理療科卒業生

卒業して10年、現在、一人暮らしをし、就労継続支援A型の治療院で働いています。就労継続支援A型は、雇用型の障害福祉サービスです。通常の就労との大きな違いは、障害に対するサポートが前提にあることです。その点で社会に出るハードルは一段低いです。ただし、たくさん働いて、より稼ぎたいといった方には向いていないかもしれません。また、長く勤めることを想定していないケースもあるようです。その事業者の考え方を把握しておくのが大事だと思います。

さて、私が現在の職場に決めた理由ですが、一番は自分を成長させることができそうだったからです。より先の将来のイメージをつかむためにも、そして、自分の得意不得意を見極めるためにも、幅広い経験ができそうな環境を希望していました。幸運だったのは、運営元がしっかりした理念の福祉法人だったことです。想像以上に手厚いサポートが得られました。ちょうど立ち上げた時期だったこともあり、大変勉強になりました。当初は、数年で自分の技術を見極めて・・・などと考えていましたが、いまだに学びと試行錯誤の日々です。これは、きっとずっと続くのでしょう。

在校生の皆さんへアドバイスをとのことなので、偉そうだなと思いつつ、敢えて挙げるとすれば、体調の自己管理の重要性です。一人暮らしをしながら働いていると、日々の食事・休息・メンタルの状態が、施術の良し悪しに影響するのがよく分かります。卒業後、自炊をしようと考えている人は、家電・便利グッズを使いこなすつもりで、練習しておくといいでしょう。いかに楽に、生活ができるかは重要です。ストレスになったら、続けられません。また、時間があるうちに、パソコンとスマートフォンはある程度使えるようにしておいたほうが良いです。情報の獲得は大事ですし、視覚をサポートしてくれるアプリを使いこなせば、できることが確実に増えます。私自身、まだまだこれからどうなっていくのか、どう変わっていくのか、分からないところです。それでも、少しずつ成長している感じがします。

皆さん、いろいろな不安があると思います。できる限り、周りとはコミュニケーションをとってみてください。そして時には、直感を信じて動いてみてください。みなさんに、より合った道が開けますように。

理療科オープンキャンパス

理療科主任

11月3日に、今年度2回目となる理療科オープンキャンパスを行いました。参加者は、本校高等部生徒1名、外部から1名とその御家族でした。内容は「解剖学・生理学」の授業体験とし、解剖学では「胃」の模型を使って部位の名称について、生理学では消化や吸収の仕組みについて学習しました。実技では、鍼（はり）を皮膚の構造に似た「なす」に刺したり、あん摩・きゅうの施術を受けたりと、体験しながらの学習でした。参加者からは「覚えることが多くて難しかったが、事前に心の準備ができて良かった。」などの感想が聞かれました。

今回、参加していただいた皆さんには、理療科を進路選択の一つとしてもらえればと思います。理療の魅力は、見えない・見えにくくても知識や技術を身に付けることで、人の健康に寄与できる素晴らしい職業だということです。まだ参加されていない方や御家族の参加も理療科一同、心よりお待ちしております。

啓発活動

毎年12月3日から9日は、障害者基本法で障害者週間と設定されています。この期間、福井大学では「こころのバリアフリー展」が開催されました。その一環として、昨年に引き続き、文京キャンパス総合図書館にて「視覚障がい者と考えられるこころのバリアフリー！ -見えにくい・見えにくい体験を通して-」と題して、セミナーを開催しました。

会場に加えてオンラインでも配信され、計30名の方に御参加いただきました。盲学校の紹介や視覚障がい者の見え方、共生社会を実現するために必要なこととお話し、クリアファイルを使った見えにくさ体験も行いました。

参加者からは、「小さな工夫で身近にある障がいをなくせると感じた」「自分のできることから取り組んでみたい」などの感想をいただきました。

春休みは進路を考える機会に！

新年度初めに「進路希望調査」を実施します。それに向けて春休みは、児童生徒・保護者の皆さん、将来の進路や生活について考え、話し合ってみてください。そして、進路目標・計画を立ててみましょう。1年間、進路指導活動への御理解と御協力をいただきありがとうございました。